

会派代表質問

政 真 会

森 建二 議員



財政健全化に向けた取り組みとICTの導入、防災を問う

11月の市議会議員一般選挙にてご支援を賜り3期目議員とさせて頂きました。市民の皆様の声をお聞き、執行部、先輩・同僚議員と協力しながら住民目線の市政を目指します。

そして今回、会派「政真会」をつくりました。政治に真っ直ぐ真剣に取り組み気持ちを込めて、青臭いかもしれませんが、名前をつけました。市政を進める一助になれば幸いです、よろしくお願ひ致します。

○財政健全化に向けた取り組み
大網白里市の経常収支比率は99.5パーセント。自由に使えるお金がない。

今選挙中もよく訊かれた数値です。参考にお隣の千葉市では、平成21年に将来負担率が28.5パーセントなど、各種財政指数が落ち込む中で「脱・財政危機」宣言をいたしました。当時の熊谷市長いわく、大きい市中ではワースト1だったと。そして8年かけ平成29年9月に宣言を解除。具体的には何をしたらかと言え、特別な事をした訳ではなく、「宣言」に挙げた事をひとつひとつ真面目に取り組んだとの事です。

本市も令和2年3月に「財政健全化に向けた緊急的な取組」を提出しました。財政状況の悪化を市民にご理解頂くためのものだと思います。

3年半経って具体的成果は。答 これまで歳入・歳出面にわたる対策に取り組んで参りました。ふるさと納税や市税の収納率向上、市有財産売却などで歳入増加が図られたほか、歳出面でも新規事業の抑制や既存事業の見直しなど対策を講じてきたところです。結果、財政指標の1つの財政調整基金の積立金残高は、令和元年度末に約十億九千万

円だったものが、令和4年度末には約十五億四千万円まで回復しました。

一方で経常収支比率は、令和4年度決算で99.5パーセントと極めて高く、経常的な収入と支出への恒常的な対応が一層必要です。

今後この取り組みを着実に継続・前進させて参ります。

歳入面では、市税の徴収強化、都市計画税の導入、受益者負担の適正化、市有財産の売却等、基金の整理統合と企業誘致の推進、ふるさと納税の推進などの成果も見えます。

歳出面では、補助金や扶助費の見直し、そして主に大網病院と下水道事業に係る一般会計からの繰出し。バランスを取り進めて頂きたい。

また圏央道スマートIC活用の企業誘致は、企業誘致条例を有効活用し、数年後に予定の圏央道成田空港直結の需要に繋げるべきと考えます。

○ICTの導入について
ICT、情報のやり取りの自動化。総務省が様々な助成を始めています。他自治体の活用事例で多いものはチャットボット、住民の問い合わせに対する自動の受け答えです。

私も民間でお客様商売を長くやりましたが、これを利用して窓口にメンタルヘルスの改善にも繋がります。高齢者予防接種事業、小児の予防接種事業、就学園児業務、保育所の入所申込み業務、預かり保育料の決定業務等々において有効活用できるでしょう。今の若い人は直接問い合わせるよりスマホを経由した方が楽だという声も聞きます。

1つ目はこのチャットボットを使った対応、2つ目には業務ツール、会議録の作成などを自動化し業務の

効率化を図る事。現状は。

答 本市では音声認識AI機能を有した会議録作成支援システムを令和3年度に導入しました。市議会の各

常任委員会や農業委員会総会等の定例的な会議を始め、各課が所掌する附属機関等の会議において有効的に活用され、作業時間の短縮など職員の業務の効率化が図られています。

本年度は、文字認識のAI機能を有したAI・OCRの活用を試験的にを行い、申請書の読み取りなど定例的な事務への活用効果を検証して参ります。

AIの利用推進については自治体DX推進計画の重点取組事項に位置づけられており、本市におきましても、業務の効率化や職員の負担軽減に有用なツールと認識し、検討を進めて参ります。

RPAいわゆるロボティック・プロセス・オートメーション。シナリオに基づいた業務の自動化。防災情報の発信にも繋がる。導入を進めて頂きたい。

また地域情報アドバイザー等外部人材の活用も積極的に進めて下さい。※その他、安心・安全のまちづくりについて問い質しました。

関連質問

猪崎紀人 議員



○安心・安全なまちづくりについて
問 通学路の安全対策について

答 通学路にある季美の森南3丁目・5丁目自治会館前の交差点で、車2台が歩道に乗り上げる事故があり、通学路の安全対策として信号機設置等は考えられないでしょうか。

答 令和2年度に地元自治会から信号機設置の要望が提出され、昨年11月に警察が現地診断した結果、現状の交通量では設置は難しいとの判断でしたが、現地在通学路である状況を踏まえ、引き続き警察と検討していくこととなりました。

○高齢者福祉について

問 免許返納や足腰の衰えにより外出困難な高齢者が増えることが予想されますが、日常の足として、ゴルフカートのような電力で走るグリ

ンスローモビリティが松戸市を始め、様々な自治体で導入もしくは、運行実証を行っております。

本市でも検討は行っていますか。

答 本市で取り組んでいる外出困難な高齢者に対する移動手段は、要介護認定者対象の福祉有償運送や介護支援事業によるボランティアの移動サービス、また、地域を運行する送迎バスを利用した高齢者の外出支援を行っております。

グリーンスロモビリティは、高齢化が進む地域において環境にも配慮された移動サービスですので、先進地事例等を参考に検討して参ります。

○大網駅南地区まちづくり協議会について
問 進捗状況について

答 協議会の発足趣旨と進捗状況をお聞かせください。

答 協議会は、土地所有者や関係区長が会員となり、市との協働によるまちづくりを進めることを目的として、昨年10月に設立されました。これまで4回の検討会を開催し、大網駅周辺の現状と課題整理や先進自治体の事例、都市基盤の整備手法などの学習を行い、まちづくり構想の策定に向けて取り組んでいます。

問 市民への情報発信について

答 市ホームページに「まちづくりだより」を掲載しています。

民間企業出身の私から見ると、1年経てば価値観も変わってしまう今のスピード化時代、構想策定に2年半から3年もかかるのは時間のかけ過ぎだと感じます。

スピード化時代に対応できるように、もっとスピード感を持つことを心がけて頂きたいと思えます。

個人質問

道の駅建設ありきではなく、高齢者の買い物支援や外出支援の充実を！

黒須 俊隆 議員



多くの市民は、道の駅が起爆剤になって白里地域が活性化すると、白里地域の買物対策が解決し、かつ道の駅が黒字経営できると思っております。少ない建設費でこんな夢のようなことが実現するということが夢のまた夢。そんなよい方法があれば、10年前に既に実現していたはず。

白里地域の方々も、そんな夢のような話よりは、今進めている移動スパーのような施策の充実を求めているのではないのでしょうか。

地域の高齢者の買物や外出支援に重きを置くのであれば、スパーハヤシの跡地利用を市が積極的に誘導して進める必要があると考えます。

今から道の駅検討委員会を検討して、何年も先に道の駅を建設するよな計画で本当に良いものかどうかは大変疑問に思います。

問 今後のタイムスケジュールをお答えください。

答 令和8年3月をめどに基本構想および基本計画の策定が完了し、答申が出されるよう、道の駅整備検討委員会に諮りたいと考えています。

問 検討委員会で何らかの答申が出たあとに基本計画を策定して、それから設計や建設の話が出てきます。簡単には終わらせません。

今の市長の任期では、具体的な話にはなりません。

議会全員協議会では、検討委員会で仮に建設が難しいという結果になるかもしれない、まだ何も決まっていなから検討委員会を作りたい、そういう説明が市から議会にありました。私を含め数名反対しました。ほかに、何人かの議員が意見として、道の駅は賛成だけでも、今

すぐじゃないだろう、そんな意見を言われた議員もいました。そのとき担当課は、検討委員会は検討するだけだから、建設ありきではないと説明しました。

そこで質問しますが、仮に建設中止になるとしたら何らかの基準があるのでしょうか。

答 市と致しましては、道の駅の建設に向けて、これから道の駅整備検討委員会において検討を進めていく段階でございますので、現在のところ、基準は設けておりません。

検討委員会は作るための検討をしているわけで、建設中止になるかもしれないことを想定していかないのは明らかです。全員協議会で担当の方は、正確ではない回答をしたと思います。

10年前の計画では、建設費で8億円とのことでした。今回も大きな箱物計画になる可能性があり、道の駅をやる状況ではないと、地域の皆さんもそう言っています。強くやりたいのは、要望書を持ってきた商工会だけではないでしょうか。

検討委員会は、行け行けどんどこにせず、しっかりと検討していただきたい。



市内を巡回する移動販売車